

## 第12回 国立市文化芸術推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成31年4月16日(火) 19:00～20:45
2. 場 所 国立市役所3階第3会議室
3. 出席者 (委員)  
池田委員、足羽委員、高橋委員、綿引委員、福間委員、今村委員、渡辺委員、久保委員、沢辺委員、湯本委員  
(事務局)  
青木社会教育・文化財担当主査
4. 傍聴者 0名
5. 議 事 (1) 開 会  
(2) パブリックコメント等の意見取扱いについて  
(3) 国立市文化芸術推進基本計画案(答申)について  
(4) 閉 会
6. 配布資料 資料12-1(仮称)国立市文化芸術推進基本計画案(案)についての意見募集の結果(案)  
資料12-2 国立市文化芸術推進基本計画案(答申)

### 7. 内 容

■足羽委員、今村委員、沢辺委員より遅参する旨報告があった。

#### (1) 開会

■事務局より本日の配布資料の確認及び本日の進め方について説明を行った。

■第10回、第11回の議事要旨の報告が行われ、議事要旨のとおり確認された。

#### (2) パブリックコメント等の意見取扱いについて

■事務局より、資料11-1及び11-2に基づき説明を行った。

■説明後、委員より以下のとおり質疑・意見等があった。

##### 【高橋委員】

◇11番のパブコメに関しては、北市民プラザの中に音楽練習室があったと記憶しており、それに加え、南区公会堂のホールは、音響にかなり配慮した施設としてつくられているため、このあたりも楽器演奏が可能である。そのあたりの現状に触れてから本回答にしておいたほうが良い気がする。

##### 【渡辺委員】

◇改めて計画を拝見して、懇切丁寧に作られており国立市の目指すところがつぶさに描かれているなど感じたところである。

◇計画にサブタイトルのようなものをつけるといった意見については、確かに計画の標記のみだと、固い印象を受けるし、開くのに抵抗がある気もする。一方、じゃあ、それを考えろと言われるとなかなか思い浮かばないところもあり、元号を決めるときでも何でも、その言葉の持つ意味というのが非常に深くなるため、現状私の方ではいい言葉が見当たらないため、いっそ

のことなくてもいいのではないかと最終的には感じているところである。

**【今村委員】**

◇私もこのキャッチフレーズのようなものということで、答申を読みながら考えていた。もともと条例があって、計画の11ページでは基本理念が分かりやすく言語化されていて、それに加え解説があり、さらに計画との関連を説明するために図式化しているものもある。目標が「文化と芸術が香るまちくにたち」というわかりやすい言葉があって、その目標に向かうために、基本理念として、文化芸術活動の支援と活性化、文化芸術を通じたにぎわいあふれるまちづくり、文化芸術によるつながりの創出と交流の促進、文化芸術を楽しむ環境の創造と次世代への継承という、4つの基本理念が大きく打ち出されているということで、これを一言にまとめるキャッチフレーズは、なかなか難しいだろうと思う。それはやはり「文化と芸術が香るまちくにたち」だと思われ、何かの言葉を選ぶと、この1だけが目立ってしまう、3だけが目立ってしまうとなってしまうし、基本理念の4つをすごく大事にして基本方針が立てられていて、それに基づいて計画をみんなで立てていって、それを実行するとなったときに、最終的には「文化と芸術が香るまちくにたち」という一言が、結局、一番のキャッチフレーズだし、そこに向かっていくというがあるので、何かここにワンクッションのようなものを入れることによって、その目標自体が何となくぼやけてしまうかなという気がしたところである。

**【池田議長】**

◇「に向かって」をつけてはどうか。今もそうかもしれないけど、それに向かう、より将来に向かっての意味で、向かっての答申であるというような意味を含めて考えられると思ったところである。

◇4つの基本理念でよく表されているのであれば、ほかのまちではなかなかないフレーズだと思うし、「向かって」というふうにすると、それが一番重要というニュアンスになってくるように思う。

**【今村委員】**

◇この目標は目標としてあっていいと思っているが、今、国立市では別に文化と芸術が香っていないわけではないし、既に十分には香っていると思っている。だけど、計画で活性化していくことによって、それがさらによくなってきて、といったニュアンスが出ればいいと思うが、「何とかに向かって」というと、今はそうじゃないみたいなニュアンスが、また生まれてしまうのはちょっともったいない気もする。

**【福間委員】**

◇この基本理念4つと違うことを言うことがおかしいと思うし、今村委員がおっしゃったように、1つをとると、ほかが弱くなってしまふ。そうすると、これしかないのかというのが「文化と芸術が香るまち」であるならば、この計画の目標をそのまま置いておく手があるのではないか。たとえば「くにたち」を省略して、「文化と芸術が香るまちの実現」ではどうか。

◇それでも、今村委員が心配したように、既にあるのに、これから実現かということはあるかもしれないけど、一応、ここの目標には、もう実現ということをやったとしてしまえば良いのではないか。

◇池田議長がおっしゃった点いえば、「へ向かって」とか「に向かって」じゃなくて、ただ「に」として、「文化と芸術が香るまちに」とか、「まちへ」だけを置いておけば、国立に対して呼び

かけているようでもあるし、また、未来に向かって言っているようだとすると、「へ」を付けて「文化と芸術が香るまちへ」といったことが考えられる。

**【池田議長】**

◇時代時代を映す鏡として、市民の方々のニュアンスが反映されて、前進していくという意味では、そういうことが言葉としてはいい気がする。

**【福間委員】**

◇「文化と芸術が香るまちに」がいいように思う。

**【池田議長】**

◇「へ」という手もある。

**【今村委員】**

◇「へ」が最後に来るのは少し違和感がある。

**【渡辺委員】**

◇「まち」で体言止めしてはどうか。

**【湯本委員】**

◇この意見に対する私のとり方は皆さんと少し違うかもしれないが、このご意見は、国立市文化芸術推進基本計画を一言であらわすフレーズがあるということは、例えば、計画名が固いため、芸術だからG計画、Gプランといった分かりやすい名称があれば良いのではないかという意見と捉えた。なので、これまでの議論でいうのであれば、渡辺委員が言われたようにこのままでいいと私も思う。

◇今議論している話は、条例にあらわすものであり、現在は、条例を受けて計画をつくっているわけであり、さらにまたそのイメージをあらわす必要まではないと思っている。

**【事務局】**

◇こちらは議会で出た意見になるが、今回の計画案が70ページというボリュームがあるもので、実施する取組がたくさん書いてある中で端的にあらわすとすれば、一言で言うとか何ですかというようご質問だったように思う。市側の答弁でも、そこは条例にもきちんと書いてあるので、「文化と芸術が香るまちくにたち」であるということは、そこで申し上げているし、3つの施策立案の視点みたいなところもご説明をしたうえで、ひょっとしたら、推進会議に諮った際にこれだというのが、もし出てきた場合はそれを反映しても良いかもしれないという流れだった。よって、どちらにもとれるかなという気もしたところである。

**【池田議長】**

◇現在は選挙期間中であると思うが、議員改選がなされると変更になる点等はあるのか。

**【事務局】**

◇今回は現任期の議員の方に、計画案をご報告させていただきご意見をいただいている。っそちらで出た意見を行政としては、推進会議に諮り反映させるという本日の手続を経たうえで完成版新しい議員の方々に配布させていただく予定であり、改めてご意見を賜るといったことはしない予定である。

**【福間委員】**

◇湯本委員が言われたように考えてもつくりようがない。いくら簡単に言っても、結局、「文化芸術推進プラン」くらいでほとんど変わらないと思う。なので、無理して置かないというのも

手だと思ふ。

【池田議長】

◇字のサイズやフォントも含め、この状態のまま出していくのか。

【事務局】

◇計画決定後は、製本化を予定しておりそこで字体等の修正をかける予定である。

【池田議長】

◇視覚的な問題となるが、今の状態は、字が大きいために、私個人としては何か必要なのかなと思うが、小さくしていけば逆に要らないとも思う。

【渡辺委員】

◇国立市民文化祭では例えば「文化のハーモニー」といったように必ず副題をつけている。そんなイメージでいいのかもしれない。例えば、これを開こうとか、あけてみようとか思ってもらえるよう平仮名で、そうすると見たくなる気持ちも生まれると思ふ、そのようなものを考えていたが、中身は大変しっかりしたものだからなかなか難しいところもある。

【綿引委員】

◇あえてわざわざ載せる必要まではないと思ふ。

【沢辺委員】

◇入れるとすればとしたら、さっき今村委員がおっしゃっていた、「文化と芸術が香るまち」か、それをもじったような言葉になるのかなと思ふが、あえて入れる必要があるのかといったことまでは何とも言い難い。

【池田議長】

◇近隣市では、副題のようなものを入れるのはよくあるパターンなのか。

【事務局】

◇東京26市のうち文化芸術に関する計画を持っているのは8市あるが、副題がついていたのは1市だけだったと記憶している。

◇26市以外でも事務局で調べた限り副題をつけている市は少なかったように記憶している。

【池田議長】

◇では必ずしもつける必要はないということか。

【事務局】

◇そのとおりである。

【池田議長】

◇本件については、副議長が到着次第改めて意見を伺うが現状では特に変更を加えないということ集約しておく。

◇その他でご意見があれば発言願いたい。

【福間委員】

◇17番に対する答えが若干かたいというか、ニーズがなくてもやるのが芸術だと言われたならば、ニーズに対して柔軟な考えをもつというような回答でいいのではないか。既存の答えだと若干かわして答えた感じになり過ぎている気がする。

【事務局】

◇施策としては44ページに意見に対応する内容が記載されているが、パブコメの回答案とし

ては少し回りくどい言い方となっているため修正させていただく。

**【池田議長】**

◇福間委員の意見のとおり集約したい。

**【湯本委員】**

◇4番目に、「公共施設設置の際に出来る限りアート作品の設置を進めてもらいたい。また、民間と連携した取組も積極的に図ってほしい。」に対する回答がちょっと簡単過ぎるような気がする。計画にも、民間にもアート作品の設置や展示を働きかけていとか、民間施設の活用推進とか、具体的に入っているわけであることから、もう少し親切に答えてあげたほうがいいと考える。

**【事務局】**

◇修正させていただく。

**【池田議長】**

◇今、多くのマンションなどでは、建築の際に、美術品をレンタルしてきて、その後住民からの意見がなければそのまま設置され、それが作者に還元され永久設置されといった取組みが定着しつつある。

**【久保委員】**

◇8、9、10の回答について、子どもに向けた芸術の機会というところで、計画案の54ページでも、「学校教育に加え、子どもや青少年に向け、さまざまな文化や芸術を体験するプログラムを提供しています」という記述がある。学校の立場でいくと、音楽科でも、図工科でも、中学校の美術科でも、例えば、都内全域で実施されているが、東京都美術館において展覧会が開催されていたり、市内だとRISURUホールにはなるが、小学校5年生で音楽のクラシックを全員鑑賞するという取組みは行われている。また、小学校の図工では、市内というか、2年に一遍か3年に一遍の各校で展覧会が開催されるなど、さまざまな取組が行われている。なので、その辺をもう少し、このパブコメを上げてくださった方々にご説明できると良いと感じたところである。

**【池田議長】**

◇全国で4番目に小さな市で、経済的な規模も大きくないが、文化に対する自負みたいなものがあることをうまく表現していただければと思う。

**【高橋委員】**

◇6番の回答について、芸小のホールとグランドピアノのシェアプログラムというのが事例としては出されているが、計画にも記述のある国立音大との連携事業であるくにたちデビューコンサートの方が、実際にホール利用料も支援という形でいただけていないし、より適切な事例なのではないかと感じた。

◇8、9、10の回答に関しては、ご指摘のとおり、特に芸小で考えると、コンサート、特にクラシックのほうに関しては、未就学児向けのものというのは、これまでほとんどやってないのかなとは思う。国立音大が実施しているファミリーコンサートでは乳児、幼児も可というか、そういう子たちをどんどん入れてやるというようなのを実施されているので、そういったものを例えば共同で、芸小のほうでもできればいいなというふう感じたところである。

**【今村委員】**

◇高橋委員のおっしゃるとおり、デビューコンサートについては計画案の中に明記されているため、意見のとおり改変した方が良く考える。

◇49ページの一番下に「。」が抜けているため修正願いたい。

◇ファミリーコンサートについては、基本はワンコインで小学生未満が無料。いなげやさんに協賛いただき、お菓子を配ったり、ゆるキャラが来たりして子供たちに楽しんでもらえる工夫がなされている。また、就学児であれば、国立市でやらなくても、いろいろな交響楽団は、軒並み子ども用のコンサートを夏休み、春休みに開催している。そこに国立市が参入するというのは、予算規模から考えても必要がないのではないかと個人的には思う。

◇むしろ、8番の要望である「子育て世代が楽しめる、乳幼児でも聴けるコンサートがあるとよい」という意見は、確かに普段はそんなに遠くまで赤ちゃんを連れていったりできない中でそれが家の近くで、少人数でもいいから見たり、聞いたりできるものがあると良いという意見なのではないかと推察する。現状、8番、9番、10番の回答は同一になっているが、やはり子どもたちへの文化芸術体験機会の提供の拡充の中でも、特に乳幼児向け、未就学児向け、小さな子どもをもつファミリー向けの企画があるといいなと思うので、そのニュアンスが出ると良い。

#### 【渡辺委員】

◇今月の21日に兼松講堂で、市民オーケストラというのがあって、どなたでも参加が可能でまた、無料だったと記憶しており、毎年開催されていたように思う。計画には触れられていないが、アマチュアである完成度も高く、無料でもある。市報や公民館だよりも細かく目を通さないと見つけられないがすごくお薦めだし、そういったものがもっと多くの人の目につくようになると良いと思う。

#### 【福間委員】

◇各委員の話を聞いていて、回答案をよく見ていると少し変更する必要があるのかなという気がしてきた。つまり、子育て世代が楽しめる乳幼児でも聴けるコンサートというのは、別に、乳幼児向けコンサートとは違うし、子ども向けコンサートというのは久保委員の話からしても、今でも実施しているよう思う。現在は、全てのコメントに対して同様のコメントをしているが、それでは違和感があるため、子ども向けのコンサートに関しては、今までもやっているが、もっと充実させていきたいと言えば良く、子育て世代が楽しめる乳幼児でも聴けるコンサートについては、今のままの回答でもいいし、意見を受けとめてそれをやるようにしていきたいと言ったほうが良い。

#### 【事務局】

◇ご意見のとおり、8、9、10については、個別に回答を作成させていただく。

#### ■足羽副議長が到着したため現在の議論内容について説明を行った。

#### 【池田議長】

◇副題の件についてご意見はあるか。

#### 【足羽副議長】

◇皆さんのご意見に同意する。

#### 【池田議長】

◇それでは、全員の意見として副題は入れないということで集約したい。

(3) 国立市文化芸術推進基本計画案（答申）について

■事務局より、答申案について説明を行った。

【事務局】

◇計画案自体は、前半のご意見を踏まえた形で集約させていただきたい。

◇残りは答申を残すのみとなるが、今後こういった形で計画を推進してほしいというご意見等を最後にいただきたい。

■説明後、委員より以下のとおり質疑・意見等があった。

【湯本委員】

◇先日、本田家に関する展示を見せていただいたが、とても素晴らしかった。あれだけの質の高いものが国立市にあるということは非常に素晴らしいことだと感じている。

◇現在本田家住宅にはいまだ多くの資料が残されていると聞いているし、その資料をすべて整理して、皆さんの用に供するようになるというのは、すごく大変ではないかと思っている。計画の冒頭では国や東京都が芸術文化について力を入れていくとのことであったから、そういったところの支援というのは得られるような方向でやっていかないと、国立市単独だけでは難しいのではないかという感想を持った。

◇もう一つ、本田家を最近公開されて、それも見に行ってきたが、やはりもうぼろぼろで、危なくて、入ってられないのではないかと思われたので、あの状態から直すのもそうだし、ずっと維持して管理していくことも、すごく大変なことではないかと思う。文化財として価値があるのであれば、ぜひ、東京都なりの力を得てやっていくべきじゃないかというふうに思ったところである。

【綿引委員】

◇以前から湯本委員と申し上げているが、やはり市民ニーズについてはきっちり捉えるべきなのではないか。この町の住んでいる方々の独特の文化があって、例えばこのデータだけ見ると、変化も見られないし、それがほかのところと比べてどうなのかということもわからない。なので、その特性、方向性みたいのものが何らかの形でデータの的に捉えられるのであれば、その次のステップというのがより見えてくるのかなと思うため、早急に実施してもらいたい。

◇また、お金の面が必ずボトルネックになると思うが、今、湯本委員もおっしゃっていたとおり、国、都をはじめ様々な公的機関が助成金、補助金制度を有していると思うし、そういうものを有効活用していくことが一番の近道である。

◇本計画中に、施設整備に対してクラウドファンディングという言葉が出てくるが、やはり運営に対してクラウドファンディングが出てくるべきじゃないかなと思っていて、そういうものを研究し、充実させていくことによって、幅が広がっていくことになると思う。せっかくこれだけ議論したのに、実際に具現化されていないのが一番つらいことだと思うし、これを、我々みたいな実際に事業的なことをやっている人間も含めて、一体でできるような方向性というのを、市が示していただきたいと思う。

【高橋委員】

◇私は本計画の中で、63ページの新たな推進体制の検討というところをいかに今後しっかりやっていくかというのが大事なかなと思っている。最後に芸小ホールのこと書いてあって、財団とも調整を図りつつと述べられているが、ここがうまくできるかできないかで大きく変わ

ってくると思う。これは、財団の立場としても、市とうま連携していかなければならないということ課題として持っているし、そこをポイントとしてこれからやっていきたいと考えている。

#### 【事務局】

◇今回参考資料として「地域の文化施策推進体制構築のためのフォーラム報告書」を配布させていただいたが、実際にアーツカウンシルをもうついている自治体もぼつぼつ出始めてきている。また、アーツカウンシルをはじめとする推進体制構築に向けては、文化庁より補助金が出る場合もある。

◇報告書によると、このような推進体制をつくり、つくった結果、今それをどのように機能させて機能させていったらいいかが課題であるといった意見もあり、その辺りについては特に注意を払いながら検討を進めていかなければならないと考える。

◇前述の文化庁の補助金は、まだ都道府県と政令指定都市のみが補助対象となっている。そういう意味では、基礎自治体としては先進的内容を盛り込んでいるとも思うし、委員の皆さまからの意見を踏まえ、この内容を盛り込んだため、その辺はきちんと心にとどめて検討していきたいなというふうに考えている。

◇市民ニーズについては、今回実施した市民意識調査では、新たな試みとして質問の内容を変えて実施をしたところである。内容としては、「文化と芸術の香るまちになるため、取り組むべき施策は何か」といった設問に対し回答として1番は、やはり「子どもや青少年が積極的に文化芸術活動に参加する環境を確保する」というところが、やはりどの市でも共通しているようなところであった。一方、国立市では2つ目に、「あらゆる人々に文化芸術にかかわることのできる機会を提供する」という回答が来ており、ほかの市とは少し違う傾向が出ていたというのが1つ発見としてあった。市としても、現在「ソーシャルインクルージョン」という概念を積極的に推し進めていくということもあり、市民意識とある程度マッチングしているのではないかという印象も受けた。具体的な施策の展開については今後の検討課題となるが、ニーズというものが少し垣間見えた気もしたところである。

#### 【今村委員】

◇アーツカウンシルについて、現在は補助金が出ないというお話を伺ったが、やはりこのアーツカウンシルというのは絶対に必要だと思っている。そんなに大規模なものは必要ないと思うし、小さい市は小さい市なりに早急に立ち上げておき、それを時期が経って、補助金なり何なりがおりてくるようになったときに、もう少し規模を拡大して、正式なものとして補助金をいただいて、格上げするといった進め方でも良いのではないか。

◇また、27ページの現在の市民意識調査に関して言えば、設問4の「文化・芸術活動を行ったことがありますか」については、ない方が大半になっているが、おそらく芸術活動をメインに考えている気がする。そうすると、たしかに芸術活動は普通の人にはあまりやってないと思うし、そうするとないというふうに思うが、文化活動は、生活のありとあらゆるところに深く浸透しており、本人が気づかなくても、意外にやっているということがあられるかもしれない。

◇市が考える文化の例をもっと列挙して、これも文化なのかと再認識するようにしてはどうか。市民が、これは文化なんだというふうに再認識するということによって、そこで啓発されるということもあると思う。この調査はかなり漠然とした聞き方なので、はっきり言って、アンケ



一トに答えている時点で、何について聞かれているのかよくわからない、答えようがないとなってしまう。

◇ニーズの把握に関して言えば、この設問は、市民意識調査というほかにたくさんの設問がある中で文化部門ということなので、答えるのが大変だと思うし、せっかく条例ができて、基本計画ができたところなので、少し細やかなアンケートをとるといいのかなとも思う。

#### 【福間委員】

◇私は2年前の条例検討の冒頭で、文化芸術という言葉はあるかという疑問を投げかけさせてもらい、それなりに皆さんに、それはそれで理解してもらった気がして、できるだけ「文化と芸術」というように「と」を入れて考えたいというところがあった。議論の中でだんだんと「文化芸術」になっていったが、それでも条例の中には、ちゃんと文化と芸術を区別した部分もあったので、今の今村委員の話でも、何でもかんでも文化芸術とやってしまうと、やっぱり混乱が起きる場合があると思う。だから文化と芸術は、必要があることについては、分けて考えるようにしていくというのは結構大事かもしれない。

◇この計画でもずっと文化芸術言ってきたが、実はそこは文化だということと、ここは芸術だということがやはりあると思う。それを頭のどこかに置いてやっていくというのが、改めて大事ではないかと、今村委員のアンケートに関するご意見を聞いて感じたところである。

#### 【今村委員】

◇例えば、どんと焼きに行ったといっても文化活動をしたとは思わないと思う。だけど、どんと焼きに行くのは、伝統文化に参加していることになるし、自分は参加していて、こういう文化的な活動は大事でそういう伝統を守って行って、子どもに伝えていきたいと素朴に生活の中で思う。

◇プロの音楽家がドレスを着て演奏しているのだけが芸術とか文化ではないし、草の根的なものをもっと再認識されて、それがボトムアップというか、みんなに共有されていくことによって、文化の香るまちに、よくなっていくということは、すごく自治体としては大切なな思っている。

#### 【久保委員】

◇個別のエピソードになるが、先日の桜が咲いている時期に大学通りで絵を描いていたところ、昔の卒業生が今は国立に住んでいないが桜を見に来たと言って帰ってきたことがあった。その話を聞いて、まち自体がより文化的になっていけば、より帰ってくることができる、自分を迎え入れてくれる存在というふうに思ってくれるのではないかと思ったところである。

◇文化とは、芸術とはという認識のところで、もっとおおらかに捉えるというところを市民の中にも意識を定着させるような機会があったら素敵かなと思ったところである。

#### 【渡辺委員】

◇今村委員がおっしゃっていた市民意識調査は、私も以前回答したことがあるが、医療機関はどうしているかとか、買い物はどうしているかとか、どういうところに住んでいるかとか、交通の便はどうかといった中の一部に、この文化・芸術に触れているかという設問がある。分厚い中の一部であるため、これが文化・芸術に関するニーズだというふうにとってしまうのは非常に問題というか、安易に受け取ってしまうべきではないと思う。計画には文化芸術のニーズ把握のためのアンケートを実施するという文言が入っていたので、そちらに期待したい。

#### 【足羽副議長】

◇文化・芸術活動といったように直接的に聞かないほうが逆にいいと思っている。例えばだが、それに参加したことがありますかとかより、国立の桜をどう思いますかといったように、問いかける側が文化・芸術という言葉を使わずに、そういうふうになっているようなことを挙げて、聞いていって、そしてまとめていくという聞き方が良いのではないか。

◇文化・芸術というのは、我々の中では幅広い意味で合意していることだと思うが、そう考えると、例えば、環境、まちづくり、などのほかの計画や平和人権の委員会や男女共同参画委員会などの附属機関とさまざまな横の連携をしっかりとした中で、いろんな事業を立ち上げていくことが肝要である。

◇もう一つの感想としては、パブリックコメントの17について、ニーズがあるからやるのではなくて、ニーズがなくてもやっていいこともあるという意見があるが、これはよく若い人たちがおっしゃっていて、ニーズをとることで開拓していくということももちろん非常に大事である。それと、同時に、少し先見性をもって、ある部分を刺激したら、もっとこういうふうになるのではないかと、潜在的にこういうものがあるので、これをもっと引っ張ったら、すごく特徴あるものになるんじゃないかという部分も、この領域の大事な部分であると思う。

◇「今後考えられる取組」というのを、ざっと見ていたが、やはりこれだけでは少し足りない気もしているところである。この「今後考えられる取組」は、今ある中で何ができるかということ、集約したものであって、これに縛られる必要はないのではないかと個人的には思ったところである。

◇計画に記載のあることもとても大事であり、では、それをどのようにニーズを見ながら、または、ひょっとして、ニーズとまた逆なことをやるかもしれないが、そこを刺激しながら、やっていこうとするときに、やはりアーツカウンシルというのは非常に大事な存在になってくると思う。このアーツカウンシルの一番大事なところは、独立性と専門性で、今欲しいからやるのではなく、10年、20年先にこうなるのではないかと先見性を持ちながら、ある程度独立性を保ったところで提案して、予算をつけて、そして、その横のつながりもコーディネートしながら、全体見通して、あらゆるものを文化・芸術活動として考えるのであれば、障害者の問題も含めて、そういったことができる組織であるというのは必要性はますます高まるのではないかと。

#### ■事務局より、今後の流れについて説明を行った。

##### 【事務局】

◇本日ご承諾をいただいた内容は教育委員会に答申させていただく。

◇本計画は行政計画となるため、庁議という会議体のほうに諮り、これで行政計画として決定をしていくというような意思確認をさせていただきます。さらに、本計画は、教育委員会で所管する計画となるため、最後は教育委員会のほうに議案として提出をさせていただき、教育委員会で議決がなされれば計画決定となる。

◇6月からは、今度はこの施策の推進、もう一部、少し先行でやっている部分はありますが、今、ご意見いただいたところを中心に、施策のイメージ図でもお示したようなところを中心に、まずは初期の段階から計画の施策を推進していくことになる。

◇推進会議については、毎年度、施策の進捗状況を評価していただくことや事業等の提案を行

っていただくようになる。よって、次回は年度末に会議を予定させていただき、そちらで施策の進捗状況や事業提案等を行っていただく予定である。

**【今村委員】**

◇推進会議の委員というのは、本日の会議で終了となるのか。

**【事務局】**

◇委員の任期は2年になっているため、現任期は32年の4月30日までとなっている。